

# フェンシング競技におけるパフォーマンス分析

## ～東京オリンピックに向けた取り組み～

公益社団法人日本フェンシング協会 千葉 洋平

### 1. はじめに

公益社団法人日本フェンシング協会では、2年後に開催される東京オリンピックでの成功に向けて、スポーツアナリストを各種目に配属し、様々なデータを用いた選手のパフォーマンス評価や海外選手の特徴分析、目標設定と課題達成具合の検証などを行っている。

### 2. 競技現場におけるデータ活用について

発表者が行っているアナリスト活動は、大まかに情報収集、分析および加工、フィードバックの3つに分類される。練習や国際大会に帯同し、日本人および海外強豪国選手の試合映像の撮影を行っている。これらの試合映像は1年で約1500試合を超えるほど膨大になる。収集された試合映像から、専用の分析ソフトを用いて各選手の攻撃の種類や攻防が行われた場所、時間を分類、数値化することによりその傾向を明らかにしている。また、分類したそれぞれのシーンの抽出を行い、数値データと合わせることでより定量的かつ定性的な分析が行われている。映像やデータのフィードバックでは、即時性や利便性を考慮し、携帯情報端末とクラウドコンピューティングシステムを利用している。また、姿勢解析用の専用カメラとAIを用いた動作解析を行い、今まで人の目で判断していた特定シーンの抽出やパターン分析などを自動で行えるような、新たな試みを始めている。

今回、以上のような東京オリンピックに向けたフェンシングナショナルチームのアナリスト活動の事例について紹介する。